

# 感 染 症

科目責任者 福 島 啓太郎

学年・学期 3 学年・3 学期

## I. 前 文

第二次世界大戦後、感染症はペニシリンを始めとする抗菌薬の開発・進歩により、制圧が可能と思われた時代もありました。しかし、皮肉にも抗菌薬治療の発達が多剤耐性菌のアウトブレイクを誘発させています。それゆえ、抗菌薬の選択とその使用法が重要となってきました。また、HIV、SARS、BSE、新型インフルエンザ、エボラウイルス病等の新興感染症や結核、劇症型A群溶血性連鎖球菌感染症等の再興感染症が最近問題になっています。さらに、国際化の発展により人の出入国や海外との物流が盛んになることでデング熱、ジカ熱等の輸入感染症も問題化してきています。

本講義では各種感染症の疫学・発症機序・診断・治療・予防などについて総合的に学修します。併せて感染に対する生体防御反応の機構・免疫、日和見感染症や院内感染対策などについても理解を深めます。

本科目を通して、患者やその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師として活躍できる知識を習得することが期待されます。

## II. 担当教員

教 授	菱 沼 昭	(感染制御・臨床検査医学)
教 授	春 木 宏 介	(埼玉医療センター 臨床検査部)
特 任 教 授	千 種 雄 一	(医学部)
特 任 教 授	杉 山 公美弥	(国立病院機構宇都宮病院 呼吸器内科)
准 教 授	佐々木 光	(内科学(血液・腫瘍))
講 師	福 島 啓太郎	(小児科学)
講 師	福 島 篤 仁	(感染制御・臨床検査医学)
講 師	知 花 和 行	(内科学(呼吸器・アレルギー))
講 師	水 野 智 弥	(泌尿器科学)
非常勤講師	館 田 一 博	(東邦大学 微生物・感染症学)
非常勤講師	吉 田 敦	(東京女子医科大学 総合感染症・感染制御部 感染症科)
非常勤講師	室 久 俊 光	(足利赤十字病院 内科)
非常勤講師	松 田 直 人	(日本医科大学 総合診療科)

## III. 一般学習目標

病原体(ウイルス・細菌・真菌・寄生虫など)の基本的特性を理解し、感染経路、感染様式、発症機序、検査法、治療法を学修します。そして耐性菌の薬剤耐性機構、医療関連感染症の基本的知識を習得し、その対策について学びます。また、敗血症と全身性炎症反応症候群(SIRS)を理解するようにします。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 種々の病原体(ウイルス・細菌・真菌・寄生虫他)による疾患を説明できる。
- 2) 種々の病原体に対する検査法、治療法を説明できる。
- 3) 抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬の特徴、適応を説明できる。
- 4) 薬剤耐性菌を説明できる。
- 5) 敗血症と全身性炎症反応症候群(SIRS)を説明できる。
- 6) 日和見感染症を説明できる。
- 7) 院内感染対策を説明できる。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	11	5	木	1	感染症総論	福 島 篤 仁
2		5	木	2	小児の感染症 (小児におけるウイルス感染症を中心に)	福 島 啓 太 郎
3		5	木	3	寄生虫感染症	千 種 雄 一
4		24	火	4	HIV感染症	佐々木 光
5		24	火	5	輸入感染症	春 木 宏 介
6		24	火	6	薬剤耐性菌	舘 田 一 博
7		26	木	4	深在性真菌感染症	吉 田 敦
8		26	木	5	感染症治療, 抗微生物薬	吉 田 敦
9	12	3	木	3	グラム陽性菌とその感染症	松 田 直 人
10		3	木	4	結核以外の呼吸器感染症 (肺炎, インフルエンザなど)	知 花 和 行
11		4	金	5	感染症に対する免疫応答	龍 野 桂 太
12		4	金	6	結核	杉 山 公 美 弥
13		8	火	4	感染症の新たな診断法	菱 沼 昭
14		8	火	5	消化器感染症	室 久 俊 光
15	1	8	金	1	性感染症	水 野 智 弥
16		8	金	2	感染制御の基本	福 島 篤 仁

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

試験, 出席状況等を総合的に判断して評価します。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書は指定しません。

VIII. 質問への対応方法

科目責任者 (福 島 啓太郎: fukush@dokkyomed.ac.jp) または各担当教員にメールでアポイントをとる事をお勧めします。

## IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

## X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事後学習で提出されたレポートは添削のうえ、返却します。

試験については終了後に解説文を配付します。

## XII. 求められる事前学習、事後学習

シラバス別冊参照。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

## XIII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊参照。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）